

2023 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 2025-0-31-060				担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)			
科目区分	ゼミナール	必修・ 選択区分	必修	単 位 数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 課題解決型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
行政・福祉実践者としての視点から、現状の支援施策を検証するとともに、実際に各自が希望する公務員分野や福祉分野にボランティアとして参加し課題の発見やニーズ抽出を学修することを目的とする。さらにそれを解決する方策を考察して提案する能力を習得することを目標とする。ゼミ学生が必要と考えている行政・福祉支援を中心に検証を行う。また、ゼミ生の希望を取り入れて福祉分野全般への取り組みも行う。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
社会福祉を理解するため、市職員・関係施設・ボランティア団体から福祉に必要なサービスや心配ごとなどを学修する。さらに、課題検討・フィールドワーク・ディスカッションを行う。また、子育て支援施設などでのボランティア活動も行う。グループに分かれて、現状を検証しつつ、問題点・解決策を導き出す。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ テキスト (教科書)									
テキスト指定なし。代わりに、参考書を配布する。									
⑥ 参考図書・指定図書									
長岡市 (2020) 『子ども・子育て支援計画 (子育て・育ち“あい”プラン)』 長岡市 (2016) 『子育てガイドー妊娠期から小学生までー』									
⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
(i) 地域社会の実情を把握すること (ii) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること (iii) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域社会の実情を把握すること	地域住民のつながりを踏まえて、地域福祉の機能や地域組織の必要性や課題を説明できる	地域住民のつながりを踏まえて、地域福祉の機能や地域組織の必要性を説明できる	地域住民のつながりを踏まえて、地域福祉の機能や地域組織の必要性の資料等を見ながら説明できる	地域住民のつながりを踏まえて、地域福祉の機能や地域組織の資料等を見ながら説明できる	地域住民のつながりを踏まえて地域福祉の機能や地域組織の説明を教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること	自分の意見や他者の意見を理解し、話題を作ったり、傾聴の姿勢でコミュニケーションをとれる	他者の意見を理解し、話題を作ったり、傾聴の姿勢でコミュニケーションをとれる	概ね他者の意見を理解し、話題を作ったり、傾聴の姿勢でコミュニケーションをとれる	自分の意見のみで話題を作れるが、傾聴の姿勢でコミュニケーションがとれない	他者の意見を聴くのみでコミュニケーションがとれない
(iii) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること	卒論に向けて、背景・現状の考察、課題・対策の考察を行い、実現可能な対策の論理的な論文を作成できる	卒論に向けて、背景・現状の考察、課題・対策の考察を行い、実現可能な対策の論文を作成できる	卒論に向けて、背景・現状の考察、課題・対策の考察を行い、論文を作成できる	卒論に向けて、背景・現状の考察、課題・対策の考察を行い、論文を概ね作成できる	卒論に向けて、背景・現状の考察、課題・対策の考察の説明を教員等の支援を受けても論文を作成できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			10%		60%	30%		100%
(i) 地域社会の実情を把握すること					20%	10%		30%
(ii) 自分の意見や他者の考えを理解したコミュニケーションができること					20%	10%		30%
(iii) 課題解決に向けた情報収集や対策が提案できること			10%		20%	10%		40%
フィードバックの方法	情報共有のため、学習会を開催する。ボランティア活動にも参加する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
積極的な行動が行えるように、各学生が公共政策の具体的に立案を行う。その際はゼミ生の話し合いで決定する。卒論やレポート作成の指導も行う。ゼミ学生の自主性を尊重した活動とする。コミュニティセンター・子育ての駅・高齢者施設でボランティアの参加も行う。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション	前期授業の意義を理解	60分
2	施設見学(1)	長岡市の子育て駅を理解	180分
3	長岡市子ども支援計画の考察	子育て支援の必要性を理解	180分
4	長岡市高齢者福祉計画の考察	高齢者支援の必要性を理解	180分
5	長岡市地域福祉計画の考察	地域支援の必要性を理解	180分
6	施設見学(2)	長岡市の児童支援施設を理解	180分
7	企画書の原案作成	行政等施策の素案	240分
8	企画書のグループワーク	行政等施策の考察	180分
9	企画書の考察	行政等施策の提案	180分
10	卒業論文中間発表	4年生の卒論の考察	240分
11	地域課題の考察(1)	地域における課題を見つけ出して考察	180分
12	地域課題の考察(2)	地域における課題を見つけ出して考察	180分
13	地域課題の考察(3)	地域における課題を見つけ出して考察	180分
14	地域課題の考察(4)	地域における課題を見つけ出して考察	180分
15	卒業論文方向性発表	プレゼンテーション	240分

16	イントロダクション	後期授業の意義を理解	60分
17	施設見学(3)	長岡市の子育て駅を理解	180分
18	地域課題の考察(1)	卒論テーマの検討	180分
19	地域課題の考察(2)	卒論テーマの検討	180分
20	地域課題の考察(3)	卒論テーマの検討	180分
21	卒業論文に向けた検索(1)	背景や現状の資料検索	180分
22	卒業論文に向けた検索(2)	背景や現状の資料検索	180分
23	卒業論文中間考察	背景や現状の中間考察	240分
24	卒業論文に向けた検索(3)	背景や現状の資料検索	180分
25	卒業論文に向けた検索(4)	背景や現状の資料検索	180分
26	卒業論文に向けた検索(5)	調査項目の検討	180分
27	卒業論文に向けた検索(6)	調査項目の検討	180分
28	卒業論文中間発表	3年生の卒論中間の考察	240分
29	卒業論文発表	4年生の卒論の考察	180分
30	まとめ	次年度に向けての考察	240分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL では、長岡市役所の「各種福祉計画」のフィードバックを行う。協同学修型 AL では、関係専門職やボランティアとのディスカッションを行う。課題解決型 AL では、関係施設をフィールドワークして支援内容を検証する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」「長岡市自殺対策連携会」「長岡市ボランティアセンター推進会議」などの委員を歴任している。
実務経験と授業科目との関連性
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、社会に起きている事項について、客観的視点、主観的視点、支援者の視点、住民の視点など多角的視点から社会を見ることを学生に伝えることができる。 たとえば、家族関係が希薄化する原因、家族内で起こっているDVや児童虐待の現状、課題と対策の必要性を伝えることができる。さらに行政として対応した実体験として、相談機関や保護機関を理解してもらうための必要性も伝えることができる。 また、地域福祉計画や地域福祉活動計画においても、市民が行う活動の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。 さらに、ボランティア活動を積極的に行い、学生の主体性やコミュニケーション能力の向上を支援することができる。